

## 連動文中における動量詞の位置について

白銀志栄

動作の頻度を言う場合、日本語では例えば「一週間」を例にとると、「週に～回…する」というように「週に～回」が一つの固定形式のように使われる。日本人中国語学習者にとっては、この束縛から解放されるのは極めて難しいことで、「～回」を表す“～次”を文のできるだけ後ろの位置に表現することがなかなか身につかない。しかし、中国語でも“～次”が文中の比較的前の位置に出る場合がある。本稿では、一体どういう時にそのように使われるのかについて調査し、連動文においては $V_1$ と $V_2$ が時間的継起をもった二つの動作である時と $V_2$ の動作性が低い時、また複数のフレーズと共に対比焦点を構成したい時に“～次”が $V_1$ につくことを明らかにした。

### 0. はじめに

一つの主語に動詞フレーズが二つ以上連続する連動文においては、動作の回数を表す動量補語は最後に出現する動詞に後続する、と説明される<sup>1)</sup>。が、実際には

1) “每周我去两次老人大学学习书法，一次为业余会计学习班讲课。”<sup>2)</sup>のように最初の動詞に後続する例もある。この例文は前段と後段で「2回学ぶ」と「1回教える」を対比させているが、対比に焦点を当てるために動量詞を移動させるのなら、“每周我去老人大学学习书法两次，为业余会计学习班讲课一次。”と、どちらにおいても最後に位置させなければならないはずである<sup>3)</sup>。では、1)はなぜ動量詞が“去”についているのか。翻って、そも

そも連動文においてはどういう場合に、動量詞は $V_1$  或いは $V_2$ <sup>4)</sup>の後に置かれるのか、本稿はそれを探ろうとするものである。

## 1. 先行研究と本稿の調査方法

残念ながら、この問題意識を共有した先行研究は管見の限りでは見出せなかった。動量補語と目的語との語順に関する研究からは、中国人研究者にとっては研究対象が連動文の後半部に出現するものであれ、非連動文である、言わば「単動文」に出現するものであれ、それは無関係であるようだ。また、この事実自体、連動文においては最後の動詞フレーズに意味重心があることを裏付けてもいる。

- 2) 邓小平同志去这个大学讲了一次话……(《毛泽东选集》第5卷)(李兴亚 1980 からの引用)
- 3) 于是大家放开喉咙读一阵书，真是人声鼎沸。(鲁迅：《从百草园到三味书屋》)(同上)
- 4) 大家请他加入打几圈牌，他不说精神来不及，而说打牌不痛快。(方梅 1993 からの引用)(下線は筆者による)
- 5) “是么？”石静笑着仰头看我一眼，“回头我找他谈谈，看是不是真有这回事。”(同上)(同上)

以上2)～5)は、いずれも連動文の後半部に動量補語と目的語が出現している。

問題を単純化するために、今回の調査では、1)の前段に相当する連動構造を持つ文を考察の対象とし、また動量補語も“次”に限定することとする。北京大学汉语语言学研究中心の作成した現代中国語データベース(838,803,906 バイト) [http://ccl.pku.edu.cn/Yuliao\\_Contents.As](http://ccl.pku.edu.cn/Yuliao_Contents.As) を利用し、“每周/每(个)星期/每(个)礼拜/一周/一(个)星期/一(个)礼拜 次”のいずれかを

含む文を検索し、その中から連動構造を持つ文を抽出する。

## 2. 調査結果

上記による調査の結果、54の例文を得た。“每周”（表記の便のため、上記の“每周”以下「每週」を表すフレーズはこの語で代表させる）と“次”の位置関係によっていくつかのタイプに分類することができる。

### 2.1 タイプ1：“每周 次”が $V_1$ の状語になるもの（54例中13例）

- 6) 为解决这一问题，哈尔滨电车公司职工医院从去年11月份开始，组织医务人员分片包干，每周1—2次到各车队送医送药。（人民日报1993）
- 7) 驻河南省桐柏县某部坦克团一营二连，20年来坚持每周两次到敬老院为老红军、老八路扫地、洗衣、担水、读报纸，让老人欢度晚年。（人民日报1993）
- 8) 霞浦县下浒镇渔民陈国同风雨航程40载，坚持每周两次渡海为驻西洋岛上的官兵义务送菜，先后摇断了9根橹杆、挑断了10根扁担，7次在风浪中死里逃生，被评为全国拥军模范……（人民日报1996）
- 9) 为此，1991年张艳荣不顾两岁的女儿哭着闹着要妈妈，每周两次跑到北京中央音乐学院去听课，当了一名路程最远、工作最忙，但学习最刻苦、成绩最好的走读生。（报刊精选1994）
- 10) 当然，这段时间里，真弓还是每个礼拜一次利用外出练钢琴的机会和画家幽会，但是周吉不再感到愤怒，他依旧装出不知情的样子。（文学《万无一失的谋杀》）
- 11) 孩子们也是一样：他们找的钱全都花在他们自己身上：衣服，烟，酒，二星期两三次跑到雪非尔德去胡闹。（文学《查泰莱夫人的情人》）
- 12) 抗战胜利后，他与王绍鏊、林汉达、梅达君等一大批民主人士，每星期一次在上海北京西路广和居饭馆楼上集会座谈，分析国内外形势，揭露、

批评蒋介石假民主、假和平、真独裁、真内战的阴谋。(报刊《作家文摘》1994)

- 13) 每天要自己做饭, 每星期两次由写作中心开面包车到超级市场去采购食品。(报刊《读书》vol-014)
- 14) 一九七八年, 我曾经每星期一次到朱东润先生的住处上课。(报刊《读书》vol-206)
- 15) 他现在仍然每星期两次驾机在非洲原野上空飞翔。(报刊《读者》(合订本))
- 16) 她每星期三次坐在我的手术台上摇来摇去, 在黑暗中伸出腿, 但把大腿当作必须保持稳定的火箭紧紧抓着, 唯恐一时不慎便会炸开她的足趾, 令碎肉散布全室。(报刊《读者》(合订本))
- 17) 那时候, 怡芬姑母每星期一次上一间美容学校学化妆术, 风雨不改, 经年不辍。(西西《象我这样的女子》)
- 18) 戴高乐每星期一次离开简朴的外省住处——科隆贝, 到他座落在巴黎索尔弗里诺街上的办公室和人们约谈。(文学《领袖们》)

13例中、9例が新聞記事、4例が文学作品である。動量詞が状語として使われる時の条件について白銀2002:107は

- i. 書き言葉に多く出現し、その動作・行為は既に実現済みである。
- ii. 意味的に更に重要な内容を持つフレーズ或いは文が後続することが多い。

としているが、これらの例文を検討すると、更に、動量状語はその後に続く動詞句を時空間上に起こった動態的な「できごと」としてではなく、静態的な「ことがら」として表現する働きを持つことが見て取れる。

また、6) 从去年11月份开始、7) 20年来、8) 40载、9) 1991年、10) 这段时间里、12) 抗战胜利后、14) 一九七八年、15) 现在、17) 那时候のように、前に時間を表す語がおかれる場合が多いことも特徴的である。

## 連動文中における動量詞の位置について

また、7) 20年来坚持 8) 风雨航程 40载, 坚持 9) 不顾两岁的女儿哭着闹着要妈妈 17) 风雨不改, 经年不辍 という言葉が前後に付き、そのことを持続するのが困難な状況下でも頑張ってやり遂げた、という表現意図を持っている例が一定数あるのにも注意すべきである。

### 2.2 タイプ2：“次”がV<sub>1</sub>の補語になっているもの(54例中7例)

- 19) 周恩来吃不下饭, 睡不好觉, 每周要召开三四次会议专门讨论粮食问题。  
(应用文《周恩来传》)
- 20) 未来两年, 他的投资额将更加巨大, 为了全力建成国际化港口新城, 霍英东先生现在每周都来一次南沙指导建设。(报刊精选 1994/12)
- 21) 除了贵重物品以外, 失物每周都要集中一次送到当地的警察局去。(文学《人性的证明》)
- 22) 从住进医院起, 每星期姐弟俩要做两次血液透析以维持生命。(人民日报 1993)
- 23) 陈海英老师的家在 15 公里外的景宁县城, 她每周下山一次与丈夫和儿子团聚。(人民日报 1995)
- 24) 目前, 象上海这样的城市, 虽为一些跨国公司所看好, 但一些主管人员因居住环境不够理想, 而迟迟不能下决心把家般来, 而把家安置在香港, 只每星期来上海一次处理业务, 这样, 就使这些公司要进一步扩大在中国的业务受到影响。(报刊精选 /1994/05)
- 25) 至少每星期应发一次警报作为演习(预先说明这是演习的信号), 每个人都到自己的岗位上去。(应用文《第二次世界大战回忆录》)

このタイプは、V<sub>1</sub>の動作がV<sub>2</sub>より具体的である例が多い。

19) の“三四次”をV<sub>2</sub>に後続させると、

\* 19) ~, ~, 每周要召开会议专门讨论三四次粮食问题。

19')が非文になるのは $V_2$ に“专门”という状語がついているからだろうか。では、“专门”を除去してみると、

\* 19') ~, ~, 每周要召开会议讨论三四次粮食问题。

19)で“三四次”を $V_2$ に後続させようとする非文になるのは、 $V_1$ “召开会议”は $V_2$ “(专门)讨论粮食问题”より先行して行なわれる動作で、 $V_2$ を行なうためには $V_1$ を先に行なわなければならない、 $V_1$ と $V_2$ は互いに関係ある動作ではあるが、しかし一つの動作とは認められず、あくまでも二つの動作であるからではないか。それで、一定期間中習慣的に行なわれるこの一連の動作の回数を数える場合には $V_1$ で回数を表現するのではないだろうか。

21) 集中一次送到当地的警察局去 は $V_1$ と $V_2$ が時間の前後関係を表し、 $V_2$ をするためには、まず $V_1$ をせねばならず、また $V_2$ が実現する時には既に $V_1$ の動作は終了している。この例も、二つの連続した動作のうち、先にする動作の回数を数えている。

22) 做两次血液透析以维持生命 23) 下山一次与丈夫和儿子团聚 25) 发一次警报作为演习 はいずれも $V_2$ の動作性が低く、動作の回数を数えるのになじまない。20) 来一次南沙指导建设 24) 来上海一次处理业务 も $V_2$ の表わす内容が抽象的で動作性が低いことが、“一次”が $V_1$ につく理由であると思われる。

以上をまとめると、タイプ2の成立条件として以下の2点が導き出せる。

- i)  $V_1$ と $V_2$ に時間的継起があり、 $V_1$ と $V_2$ は連続した二つの動作である  
(但し、 $V_1$ は移動動詞ではない)
- ii)  $V_2$ の表わす内容の動作性が低い( $V_1$ は移動動詞であることを許容する)

### 2.3 タイプ3：“次”が $V_2$ の補語になっているもの(54例中34例)

26) 因此，我答应每周到他家为他补课三次。(人民日报 1994)

## 連動文中における動量詞の位置について

- 27) 那时他刚从英国回来，不坐班，每周来编辑部开一次社评委员会，负责写欧美问题的社评。（人民日报 1996）
- 28) 那时书店经常向各大学求售书籍，我每周都要到清华大学、燕京大学去送几次书。（《读书》vol-025）
- 29) 他俩每星期要一块儿外出用餐一两次。（文学《人性的枷锁》）
- 30) 唐先生的语气露出来：事情得慢慢的说，文博士须常常的来讨教；最好是先规定好每星期来教几次英文，常来常往，彼此好交换知识。（老舍《文博士》）

タイプ3は54例中34例あり圧倒的多数を占める。また、このタイプの $V_1$ には顕著な特徴が見られる。

$V_1$ に現れる動詞（句）（34例中）

到 5      到～去 4      到～来 1

来 8      上～来 1

去 7

返 1

外出 2

出去 1

以上のように、移動を表す動詞が圧倒的に多い。また、これ以外にも“骑自行车往返60公里”という1例がある。連動文の $V_1$ がこのような移動を表す動詞である場合、 $V_1$ は $V_2$ の目的を表す<sup>5)</sup>。つまり、どこかへ移動して何かをする、或いは何かをするためにどこかへ移動することを表し、 $V_1$ と $V_2$ とは連続した一つの動作を表すものと認識されており、意味重心は $V_2$ にある。それで動量詞は $V_2$ につく。

また、26)  $V_2$  为他补课三次 29)  $V_2$  用餐一两次 はそれぞれ“三次”“一

两次”が“补”の目的語“课”、“用”の目的語“餐”に後置して  
いて、通常的位置と転倒しているように感じられるが、方梅 1993:56 は“吵  
架”“谢幕”“告状”の例を挙げ、これらは一般的に動目フレーズとは見  
ず、れっきとした動詞であるので、“吵架两次”“谢幕三次”“告状四五  
回”は「動詞(V) + 名詞目的語(N) + 動量詞(M)」ではない、として  
いる<sup>6)</sup>。これによれば、動目構造の動詞については、動詞と動目フレーズと  
の両様の認識が可能であるということで、23) の“下山一次”も動詞“下  
山”に動量詞がついていると見るのが妥当である。

### 3. テンスについての考察

2. 1ではタイプ1について、13例中9例にV<sub>1</sub>の前に時間詞が出現してい  
ることを述べた。以下では、タイプ2、タイプ3についてこの点を検討する。

#### 3.1 タイプ2について

- 20) 未来两年, 他的投资额将更加巨大, 为了全力建成国际化港口新城, 霍  
英东先生现在每周都来一次南沙指导建设。(报刊精选 1994/12)
- 22) 从住进医院起, 每星期姐弟俩要做两次血液透析以维持生命。(人民日报  
1993)
- 24) 目前, 象上海这样的城市, 虽为一些跨国公司所看好, 但一些主管人员  
因居住环境不够理想, 而迟迟不能下决心把家般来, 而把家安置在香港,  
只每星期来上海一次处理业务, 这样, 就使这些公司要进一步扩大在中  
国的业务受到影响。(报刊精选 /1994/05)

上掲三例には時間詞及び時間を表わすフレーズがある(20)“现在”22)  
“从住进医院起”24)“目前”)が、その他の例文にはない。21)は落し  
物をどう処理するか、というルールについての内容で、テンスとは無関係で  
ある。また25)も、警戒警報が発令された時の訓練をすべきである、という



### 連動文中における動量詞の位置について

内容で、これもテンスとは無関係である。19) 23) は時間詞がないが、各文において、その前文までで設定されているはずの時間の中で起こったことであることは明らかである。20) 24) はいずれも叙述時現在、22) は入院してから叙述時に至るまでの時間を指している。

### 3.2 タイプ3について

全34例を調べてみると、 $V_1$ の前にテンスを規定する時間詞が付いている例は以下の10例であった。

- 31) 那时他刚从英国回来，不坐班，每周来编辑部开一次社评委员会，负责写欧美问题的社评。(人民日报 1996)
- 32) 起初，老板只让她每周业余穿上精品屋的服装当一次导购小姐，报酬是月400元。(报刊精选 1994)
- 33) 我三岁半开始学琴，每周到老师那上两次课，平常就由父亲辅导我学，我坐在他的腿上，他弹一句我弹一句，还不会认谱，这种强教强背，培养了我音乐的记忆力。(报刊精选 /1994/05)
- 34) 那时书店经常向各大学求售书籍，我每周都要到清华大学、燕京大学去送几次书。(读书 vol-025)
- 35) 袁运生因为此时常住纽约，只在每周返哈佛授课一次，不便买“套票”。(读书 vol-109)
- 36) 南希起先很纯情，一天不见就要写情书，一星期总要出去约会几次，被编辑部的同事们戏称为梁山泊与祝英台。(王朔《谁比谁傻多少》)
- 37) 记者在此采访时，碰到一位江苏客商，他每星期来这里进货一次，每次约2万余元，已经连续两年了，钱已赚了十几万。(报刊精选 /1994/05)
- 38) 这些日子的靖萱也很忙，本来每星期去田老师那儿学一次画，由于老师盛赞靖萱的才华，靖萱也越学越有劲，就变成每星期去两次。(琼瑶《烟锁重楼》)

39) 从那开始，精神病医生让苒青坚持服用抗忧郁药“普若扎克”，并让苒青每星期去和她见一次面。(百合《哭泣的色彩》)

40) 于是，好几件危难之事都冲着她而来；对于克莱德，现在她至多也只能每星期去探望他一次或两次——如果说她当时工作允许的话——那是她目前尽心尽力让克莱德得到的唯一乐趣——因此，她就赶紧找贝尔纳普和杰夫森商量，如何解决她眼下碰到的那一大堆困难。(文学《美国悲剧》)

その他の24例にはいずれも時間詞がなく、テンスは叙述時現在である。

39) 40) も、テンスは叙述時現在である。

2. 1、3. 1、3. 2の結果から見ると、タイプ1が過去のことがらを叙述するのに多用され、また、タイプ3は現在のことを叙述するのに多用されていることがわかる。タイプ3は使用例の圧倒的な多さから典型的な連動文と認められる。

#### 4. 問題の検証

2. 2では、 $V_2$ の動作性が低い時に $V_1$ が移動動詞であっても“～次”が $V_1$ につくことを見出したが、では、

1) “每周我去两次老人大学学习书法，一次为业余会计学习班讲课。”で、“两次”が $V_1$ についているのは $V_2$ “学习书法”の動作性が低いからなのだろうか。

刘月华 2001: 616 では2項以上のものを対比させる時は動量詞が目的語に後置する、と言っているが、これは動量詞と目的語との語順に限って述べている箇所である。

上个月，我作为组长给组里的人做了不少工作，跟小张交换意见三次，跟小李谈话两次，给小赵打电话五次，……

## 連動文中における動量詞の位置について

また、これはそれぞれの回数を数えることに焦点が当たっている場合である。

刘鑫民 2004 : 236 - 239 では、中国語の語順は焦点を表現するため (= 焦点化) の影響を受ける、として、そのタイプを (一) 尾焦点型焦点化 (二) 前置焦点型焦点化 (三) 其它类型的焦点化の 3 種類に分類している。

(一) 尾焦点型焦点化 (焦点化したい成分を文末に置く方法)

[83] 他很认真地学习英语。⇒ 他学习英语很认真。

(二) 前置焦点型焦点化 (焦点化したい成分を文頭に置く方法)

[89] 不知谁放的火。⇒ 火不知谁放的。

[94] 他踢了儿子两脚。⇒ 两脚，他踢了儿子。

(三) 其它类型的焦点化 (焦点化したい成分を、その前後に停顿を伴って、文中或いは文末に置く方法)

[98] 苏格拉底的模梭梭的眼光又平射过来了。

⇒ 苏格拉底的眼光，模梭梭的，又平射过来了。

⇒ 苏格拉底的眼光又平射过来了，模梭梭的。

しかし、これではまだ 1) の語順を説明できない。

1) “每周我去两次老人大学学习书法，一次为业余会计学习班讲课。”は上記の刘月华等 2001 の例が挙げられるような、回数をとりたてることによる表現意図があるのではなく、退職して社会的任務から解放されている話者が、週に「2 回学ぶ」ことと「1 回教える」ことで社会的活動をして、元気に暮している、ということによる表現意図があるため、動量詞を可能な限り前置して焦点化した、という必要からこの位置に置いたものであると認められる。1) を、こ

1) 每周我去老人大学学习两次书法，为业余会计学习班讲一次课。

1') は事実を淡々と叙述していて、この文を耳で聞いても、目で読んでも、受ける感じは平らに流れるようであり、何らかの情報を強調して伝達されている感じはしない。が、1) では確かに「老人大学へ書道を2回習いに行く」ことと「簿記講習会に1回教えに行く」ことが対比的に強調して表現されている。刘月华等 2001: 616 が挙げる例は回数を数えたてことに焦点がある場合だが、1) は二つの行為のそれぞれに丸ごと焦点を当てている場合である。こういう場合には動量詞は  $V_2$  の末尾にではなく  $V_1$  内の通常の位置に置かれる<sup>7)</sup>。

## 5. 小結

動作の頻度を言う場合、日本語では「週に～回…する」というように「週に～回」が一つの固定形式のように使われる<sup>8)</sup>。しかも、この形式は通常文中の比較的前の位置に現れる。日本人中国語学習者にとっては、この束縛から解放されるのは極めて難しいことで、「～回」を表す“～次”を文のできるだけ後ろの位置に表現することがなかなか身につかない<sup>9)</sup>。本稿では、(1) 連動文においては  $V_1$  と  $V_2$  が時間的継起をもった二つの動作である時と、 $V_2$  の動作性が低い時に “～次” が  $V_1$  につくことを明らかにし、また、(2) 対比焦点を構成する必要がある場合も、“～次” は  $V_1$  につくことを述べた。逆に言えば、対比焦点を持たない典型的な連動文「“来/去” (+場所詞) +  $V_p$ 」は意味重心が  $V_p$  にあるため、動量詞は  $V_p$  につく。このルールは強い強制力を持つ<sup>10)</sup> ので、中国語教育の面においては、動量詞の位置を習得させるために、教材作成、教授法の面でもっと意を用いねばならない。

<注>

- 1) 佟慧君 1986 : 234 “连动句中的动量补语在第二个动词之后。” 狄昌运 1996 : 107 “连动句中动量补语应在第二个动词之后。”
- 2) 孟广学、本間史 2004 : 60
- 3) 刘月华等 2001 : 616
- 4) 連動文においては動詞句が二つ以上連続することが許容されるが、実際には二つのことが圧倒的に多い。表記の便のため、最初に出現する動詞句を  $V_1$  と、最後に出現する動詞句を  $V_2$  と表記する。
- 5) 刘月华等 2001 : 702、陆俭明 1985 : 19
- 6) 原文は以下の通り。但我们发现,当无指成分出现在动名组合的“短语动词”里的时候,似乎有两种语序:吵两次架——吵架两次 谢三次幕——谢幕三次 告四五回状——告状四五回 事实上,  $VNM$  的几个例子里的动名组合一般不作动宾短语看待,而是地地道道的动词,因而也就算不上是  $VNM$  语序了。
- 7)  $V_1$  の目的語の後に動量詞を置くと、非文になる。
- 8) 日本人作家の作品 9 編 (赤川次郎「女社長に乾杯!」 石川達三「青春の蹉跎」 立原正秋「冬の旅」 北杜夫「楡家の人びと」 曾野綾子「太郎物語」 夏目漱石「こころ」 藤原正彦「若き数学者のアメリカ」 三浦綾子「塩狩峠」 村上春樹「世界の終わりとハードボイルドワンダーランド」 いずれも「CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊」による) について調査したところ、「週に～度/回/遍」と固定されて使われている例が 20 例あった。そのほかは「毎週」が 18 例、うち 2 例に「毎週一度は」と特に強調している例があった。
- 9) 筆者は 2006 年度後期期末試験に中国語学科 2 年生を対象に「毎週私は老人大学に 2 回行って書道を習っている」の中訳問題を出したが、“两次”を“学习”の補語として使えた回答は皆無であった。
- 10) 佟慧君 1986 : 234 - 235 には 4 例、狄昌运 1996 : 107 - 108 には 3 例このタイプの文の誤用例が挙げられている。

<参考文献>

- 佟慧君 1986 《外国人学汉语病句分析》北京语言学院出版社
- 狄昌运 1996 《怎样说得对?》北京语言学院出版社
- 孟广学、本間史 2004 「中国は今」白水社
- 刘月华等 2001 《实用现代汉语语法》(增订本) 商务印书馆
- 陆俭明 1985 〈关于“去+vp”和“vp+去”句式〉《语言教学与研究》第4期 p. 18 ~ p. 33
- 李兴亚 1980 〈宾语和数量补语的次序〉《中国语文》第3期 p. 171 ~ p. 174
- 方梅 1993 〈宾语与动量词语的次序问题〉《中国语文》第1期 p. 54 ~ p. 64
- 刘鑫民 2004 《现代汉语句子生成问题研究》华东师范大学出版社
- 白銀志栄 2002 「動量状語 “～次” について」神田外語大学紀要第 14 号 p. 99 ~ 111